

ライフスキル研究所だより VOL.26

2008年1月17日発行 会員数 正会員30名・賛助会員2名
発行者：特定非営利活動法人 ライフスキル研究所

〒563-0017 大阪府池田市伏尾台1丁目32-47

TEL 072-750-2797 FAX 072-750-2805

E-mail info@lifskill-npo.org URL <http://lifskill-npo.org/>

明けておめでとうございます

「希望のはね」

アートでスカッと！2007.12.27



理事長 小村チエ子

ライフスキル研究所は、初期から数えて30年地域でアート活動を続けてきました。他者との関係の中で自分らしさをもちながら生きることを願う人、親子の関心に悩む人々のため、心のエネルギーを高め元気になるアート遊びや自己表現を推進するNPOです。現代社会の病巣といえる、人間関係の希薄さつながりの切れた地域社会の問題にアートを通してコミットしています。

事業ごとに独自のスキルを開発してきましたが、4年前から手掛けている「子どもの絵からのメッセージ」事業は、子育てに悩む若い親を対象に、親子の相性をチェックする描画シートを使用し、描画から見える相性についてのメッセージを送る支援をしています。子育てが楽しめない、あるいはもう少し自分に自信をもてる子育てをしたい、と悩む方々に気持ちのゆとりをもたらす異色のスキルとなっています。

親子関係に関心を抱いた背景には、はるかな昔、母と兄の強い葛藤をまじかに見た経験があります。親子の愛憎のもつれは、人の一生を支配する力をもっているのを理屈ではなく、皮膚から吸収したのです。「あの子が好きになれなかった。気難しくて、いつも困らされるばかりだった」。兄の死後、明治生まれの母が私にそっと語った言葉が、私の心で通奏低音のように響き続けています。私はこれと同じ言葉を犯罪少年の親が口にするのを事件の記録書などで目にしています。母と兄は善良で、ともに粗暴とは言えない知的な人たちでした。どちらとも親密だった私にとって、ささやかな行き違いから怒りが生まれ、プレーキのかけられない二人の関係は謎でしかなく、人間というものに深い疑問をもたずにはいらませんでした。この疑問は消える事なく私の中に居座り、謎の正体を見極めたいという衝動が現在の私の活動を支えるエネルギーとなっています。親と子が、自ら理解のできないある種の衝動に支配され、不幸な関係を作り上げてしまうことがあります。そのようなことが少しでも緩和できるシステムを作りたいという願いは、自らの体験から生まれました。

会員の方々だけではなく、どのような方も親子関係が何となく「ぎくしゃくするなぁ」とか、「困ったなぁ」と親が意識し始めた頃に、すぐにライフスキルをたずねてください。あなたのために必要なスキルを用意します。2008年もどうぞよろしくお祈りします。

～理事のひとこと～ 勉強法ブーム？ 大人の学びを支えるもの

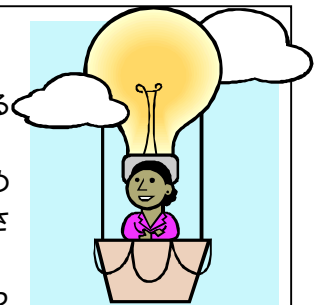
理事 小村 みち

近年、大人の学びに対して意識が高まってきています。書店では勉強法やスキルアップに関する書籍が平積みになっています。生き方のスタイルや社会的役割によって個人差はあるでしょうが、納得のいく生き方や仕事に近づいていくには、学びを重ねることが不可欠という認識が広まり始めているようです。特に雇用環境の急速な変化は、多くの人に生涯学び続けることの必要性を自覚させたことでしょう。

一方、学びにはつねに、いかに継続させるか、という問題がついてまわります。特に大人になってからの勉強は、基本的に誰かに強制されてするものではないので、モチベーションの維持が大きな課題です。成績表という分かりやすいアウトプット評価もないので、学校時代には少々勉強ができた人でもやる気を持続させるのが難しいものです。モチベーションを維持し、高める工夫それ自体が大人の学びのキーとも言えるでしょう。昇給や昇格と直結する勉強は目標設定も比較的容易ですが、すべての学びがそうシンプルに現世利益と結びつくわけではありませんし、本質的な学びになればなるほどその傾向は強いものです。

そこで多くの勉強法本が説くのは、学び自体が快になる循環を作ることの大切さ。例えば、学ぶ 自分のスキルや能力が高まる アウトプットの質が高まる 他者からの評価が高まる...などの好循環ができてしまえば、やがて情報も向こうから集まってくるようになり、学びがどんどん楽しくかつ効率的になる、と。ただし、そのサイクルができるまでには、一定の苦行的な時期が続くのも事実。膨大な量のインプット、勉強を習慣化するための工夫、目に見える変化が出ない時期を乗り越える強靭なイメージ力...これらをクリアしてはじめて、学びが快感に変わる臨界点のようなものを突破する...。学びを快感にするための工夫が続けられるかどうか、これが大人の学びの成否を左右するようです。

私自身はというと、まずは優れた人々の手法を知るべく勉強法本の類を読みあさる日々。急速に変化する現代(および未来)にサバイバルするには、学びに対する姿勢や考え方のものを刷新しないと太刀打ちできないのではないかと、という思いから、自分的勉強法ブームが続いています。本紙でも、これは！と思う気づきなどを折にふれてご紹介していければと思います。



* 会員の小林求留美さんからお便り今回は3回目です。

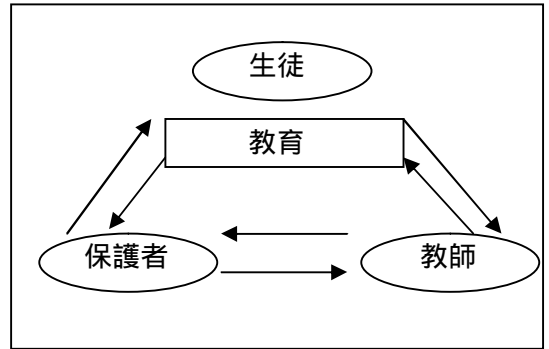
*** 小林風名古屋レポ part 3 ***

正会員 小林求留美

< 「S中ナビ」なるものについて >

S中の特色として「S中ナビ」という冊子が発行されています。入学時又は転入時に配布される冊子なのですが、これが単なる入学案内や学校便覧ではないのです。つまり学校側サイドが一方的に作成されたものではなく、「教師」「在校生」「保護者」の代表によって組織された編集委員会が作成し発行しているのです。

このトライアングル組織を図にすれば下記の様になるのでしょうか…。三方がそれぞれ意見を出して作られると聞きました。愛知県内でもこの様な形式の案内を出している校は他にはないそうです。本当に驚きの冊子です。三者間のバランスがよくとれていて、



この冊子からも生徒を保護者、教師が協力して支える土台がつけられていることがわかります。

最後に…

このように5ヶ月間本当に新しい世界を息子を通じて家族共経験してきました。このS中の独自性について100%良とは限らないでしょう。それなりに問題点もあるにはあるのだらうと思います。ただ振り返って実感することは、この新しい経験が息子にとってマイナスよりプラスの成長をもたらしたのではないかということです。具体的に目に見えるものではありませんが、何事も自分で考え、自信を持って正しいと判断する行動を身につけるといった点での成長ですが…。事実、S中転入当初のカルチャーショックとも呼ぶべきものがあつたのはまちがいないと思うのです。

今回お伝えできなかった名古屋のことで、これもまた驚きの要素いっぱい部活動のことなどについて、そしてこうまで真面目に取り組む生徒達の現象は何から起こってきたのかその原点にも考えを掘り下げてみようと思うのです。おいおいまとめていこうと思います。つたない文章と表現力ですみません。おわびとともに…。

猛夏の名古屋にて 2007.8

子どもべや伏尾台教室	
1月の教室	ピカソコース：1月は続いて「色の発見」がテーマです。「色のお料理」と題して、混色の面白さを体験しました。
1月11日・18日・25日	
2月の教室	ダヴィンチコース：1月はゴッホの「ひまわり」からイメージして、子どもたちの思い出の中のひまわりを描いています。 2/29に生活美術シリーズVol.18「お料理」があります。
2月8日・15日・22日	

アートセラピー講座

描画・音楽・ドラマなど、いろいろな芸術療法を体験したい方のための入門講座。(日程内容が変更になる場合があります)
 日 時：2008年 1/26(土) 13:00~18:00(音楽療法)
 3/8(土) 13:00~18:00(サイコドラマ)
 場 所：大阪NPOプラザ
 受講料：会員 28,000円 / 一般 32,000円 単一で参加される場合は、別途。
 講 師：増野肇(ルーテル学院大学教授) / サイコドラマ
 清水史子・久保日出子(ともに音楽療法士) / 音楽療法
 小村チエ子(ライフスキル研究所理事長) / 絵画療法他

続・絵の見かた・子どもの気持ち講座

絵に現れた子どもの心・メッセージを読み取り、子どもへの理解を深めたい方に。今回は樹木画・家族画を中心としています。(大阪・池田周辺で開催予定)
 日 時：2008年3/1・15(土) 10:00~16:00
 受講料：会員 29,000円 / 一般 32,000円

会員交流会・理事会ごあんない

第18回会員交流会 2008年1月20日(日) 10:00~13:00
 今回は新年会！一品持ち寄り形式パーティーにします。
 いけだNPOセンター さつき 参加費 500円
出席の方は早めにお知らせください。
第33回 理事会 2008年1月20日(日) 13:30~15:30
 いけだNPOセンター

ご寄付のお願い

ライフスキル研究所の活動を支える活動資金として、皆様からのご寄付をお願いいたします。皆様からのご寄付は、「アートでスカット！心の健康サポート事業」や「小学校に砂山を贈ろう！」といった、ボランティア活動の資金とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

事務局より

年未年始、TVでは地球温暖化対策の啓発のような番組が多く見られました。京都ではもうタンポポが開花したとか…いよいよ地球全体で取り組んでいかなければどうしようもないところまできているようです。抜本的な取り組みが期待されますが、忘れてはならないのは日々の私たちの生活の積み重ねで地球が悲鳴をあげているということ。地球2.5個分も必要なほど無駄使いしている日本、私は1.8個だったわ~なんて喜んではいけません(*_*;反省。(CN)